



どうなった？一般質問のその後

過去に議員が行った一般質問が、その後、町政にどう活かされたのか追跡調査をした。

原子力災害対策について (平成26年12月)

緊急時防護措置準備区域（UPZ）第1次避難地計画の早急な選定を。

質問

デマンドタクシーの広域化をはかる (平成26年12月)

デマンドタクシーは好評だ。
さらに高齢化社会に向けて複数の市町村をつなぐ広域化を求めたい。

原子力災害時の避難先

本町は、栃木県・群馬県へと指定されている。

答弁

自立した県央地域を目指す

県央9市町村による定住自立圏に向けデマンド交通を含めた公共交通の運行化を検討。

現在の状況は、こうなっています

現在、栃木県内5町との協定締結を進めている。

県において、平成27年3月に「原子力災害に備えた茨城県広域避難計画」が策定されている。
この計画の中で城里町民は栃木県内5町に分散避難することになっており、現在、5町との協定を進めている。

検討の結果、路線バス「石塚・赤塚線」を運行し移動の足を確保した。

定住自立圏中心市となる水戸市と協議・検討を重ねた。
結果、「デマンドタクシーは料金が安価であるため、市町村界をまたぐ広域的な運行は、他の公共交通事業者の事業を圧迫することが考えられ、広域運行は困難である」との結論に至った。しかしながら、町外への移動の足の確保は必要と考え、水戸市と連携し新たな路線バス「石塚・赤塚線」の運行を開始した。

編集後記

秋の収穫も終わり、農家の方には一段落の事と思えます。近年の異常天候、就農者の高齢化、獣害等で農業は魅力の無い仕事となってきてしまっています。

今年から町では町おこし協力隊のメンバーが就農を目的として町内で現在、農業について見習いをしております。

実際の農業を体験して独り立ちするには大変な努力と廻りの助力が必要と思われま

す。若い力で近い将来、隊員の方々が町内で活躍する時が来る姿を想い、現実の農業に私達も一生懸命取り組んで行かなければならないと思います。

これから冬に向かい、次の計画をしっかりと考えて行く事が必要ではないでしょうか。

片岡 藏之 記

議会広報委員会

- 委員長 関 誠一郎
- 副委員長 藤 美子
- 委員 阿 健一
- 桐 原 咲
- 阿 久 津
- 河 井 大
- 原 部 一
- 蔵 岡 藏

